

# いま水俣病を 考えること

Contemplating Minamata Disease Today

## プログラム

【第1部】  
水俣病のおさらい  
中川 亜紀治  
(鹿児島大学 理学部)

【第2部】  
写真家と対話  
小柴一良 氏を迎えて  
進行: 農中 至  
(鹿児島大学 法文学部)

## 鹿児島の水俣病を 撮りつづける写真家との対話

ゲスト:  
小柴 一良  
(写真家)

場所:  
鹿児島大学 法文学部  
1号館 2階 201教室

日時:  
12月2日(土)  
13:00 - 15:30



# 2023.12.2



# 水俣病がおしえてくれること

1956(昭和31)年の発見から67年が経過する水俣病は鹿児島県内でも発生しました。今も認定を待つ人の数は熊本県の356名に対し、鹿児島県では1064名を数えます。鹿児島もまた水俣病とつながる土地なのです。

水俣病問題の姿は、時に立場を異にする人々の闘いであり、日常を暮らす私たちがつい目を背けがちな場面の連続でもありました。しかし、患者とその家族、そして彼らを支える人々が向き合ってきた苦難とその足跡は、多様な悩みをかかえながら現代を生きる私たちにとっても、道しるべとなってくれるのではないのでしょうか。

鹿児島県の水俣病を見守りつづけるひとりの写真家があります。このシンポジウムでは、写真家の小柴一良氏をむかえ、その作品にも触れながら、水俣を撮り続ける意味や、その中で写真が果たす役割などについて参加者の皆さんと共に考えます。ここにあらためて水俣病の史実をふりかえり、写真が持つ力も借りながら、水俣病だけではない水俣を見つめます。

この機会に、どうぞ身がまえることなく、普段着のままの心と眼で、水俣病の歴史を受けとめてみてください。それはきっと、私たちすべての明日への糧となるはずです。

## プログラム

12:30 開場

13:00 【第1部】  
水俣病のおさらい  
中川 亜紀治 (鹿児島大学 理学部)

14:00 【第2部】  
水俣を撮る写真家との対話  
小柴 一良 氏をむかえて  
進行: 農中 至 (鹿児島大学 法文学部)  
登壇者: 小柴 一良 (写真家)  
中野 あずさ (南日本新聞社)  
中川 亜紀治 (鹿児島大学)

15:10 「水俣・写真家の眼」活動紹介  
奥羽 香織 (一般社団法人 水俣・写真家の眼)

15:30 閉会

## 小柴 一良

KAZUYOSHI KOSHIBA

1948年 大阪府に生まれる。'72年西川孟写真事務所に撮影助手として入所。その間、土門拳氏の「古寺巡礼1大和編」「女人高野室生寺」などの撮影助手を務める。'74年より水俣、出水の水俣病取材を開始。撮影は困難を極めたが、出水市の男性と出会い、撮影が始まった。男性は未認定のまま亡くなった。'07年「水俣病を見た7人の写真家たち」展に参加。'09年写真展「水俣よサヨウナラ、コンニチワ」を新宿及び大阪ニコンサロンにて同時開催。その後写真集を出版。'18年写真展「FUKUSHIMA・小鳥はもう鳴かない」を銀座・大阪ニコンサロンにて開催し、同名の写真集を出版。



## 中川 亜紀治

AKIHARU NAKAGAWA

1975年 熊本県八代郡の生まれ。専門は電波天文学。星までの距離を測り、一生の終わりにさしかかった星の様子を詳しく観測する。環境教育をテーマとする科目で、水俣病と自然科学の関わりに着目した講義も担当する。毎年水俣病にちなんだ市民向け読書会を主催。

会場には小柴一良氏の作品を展示します

2023年 12月 2日 (土)  
鹿児島大学 法文学部  
1号館 2階 201教室  
13:00~15:30  
(開場は12:30)

入場無料 (申し込み不要)

本シンポジウムは鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター令和5年度 地域マネジメント教育研究プロジェクトの一環として実施されます。

### 鹿児島大学郡元キャンパス

構内に駐車場はありません。公共交通もしくは周辺のパーキングをご利用ください。



法文学部 会場

問合せ: 中川 亜紀治  
(鹿児島大学理学部 物理・宇宙プログラム, 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター地域マネジメント教育研究プロジェクト代表者)  
電話: (099) 285-8077 メール: nakagawa@sci.kagoshima-u.ac.jp